

国際協力特別賞

「私とカンボジアと夢と」

岐阜市立東長良中学校 2年

山田 佳歩

「この先、地雷危険！」

まだカンボジアでは地雷が身近に存在していることを六年生の時に本を読んで初めて知った。そこで私は、現地で生活する人々の思いを学びたいと思い、「岐阜市青少年国際教育夢プロジェクト事業 夢 IN カンボジア」に参加することを決めた。

「教師になりたい。」これは、カンボジアのアピワット小学校のある女の子の夢であった。この小学校は地雷原の中に位置しており、いつ負傷しても命を失ってもおかしくない場所であった。恐怖と不安が隣り合わせの環境だけど、そんなことを感じさせないくらい彼女の目はきらきらと輝き、笑顔だった。私にはない大きな希望をもち、力強く歩んでいる。また、私と同年代の多くの子供達は、夏休みの休日に働いていた。家族のために、少しでもお金を稼いで、必死に生きていこうとしていると感じた。自分で壁を乗り越え、自分の人生に責任をもって生きているのだ。私が彼らにできることは何だろうかと思問自答した時、答えが見つからなかった。自分の無力さが情けなく感じると共に、この世界には同じ子供でもこのように大きく境遇の違いがあることを目の当たりにして不平等さを感じた。日本は治安がよく、学習環境が整い、物が豊富にあり不自由なく生活を送ることができる。また、多くの人に支えられながら、挑戦できる環境がある。それは私たちにとって当たり前の一言で済んでしまう。しかし、私は今までこの選択肢があるのにも関わらず、知らず知らずのうちに大切なものを見過ごしてきたのではないかと思い心が締め付けられた。カンボジアの子供達は、決して整った環境とは言えない。環境によって選択肢だけでなく権利も奪ってしまっていた。けれども、その中で夢を追いかけ続けている。もし、この日本と同じような環境があれば、もっと様々なことを経験し、より広い考え方をもち、未来へはばたけるのではないかと思った。

今の私には大きく世界を動かせる力はない。でも、日本とは全然違う環境があること、その中でたくましく生きている子供達がいることなど、少しずつでもいいから、みんなに伝えることができる。つまり、私がカンボジアに行って終わりではなく、ここからがスタートである。自分の一歩が自分の願う世界につながると思う。そのために、今回この作文を投稿したり、研修の報告会を行ったりして広めていこうと思う。また、この研修での多くの人との出会いやトンレサップ湖のどこまでも続く水平線、民宿で見た無数の星が輝く夜空等、地球の広さを肌で感じた時、まだ私の知らない世界がたくさんあることを知った。そこで、今、世界で何が起きているのか、何が課題なのかを学びたいと思った。そして、日本と外国の架け橋になりたいという夢をもつことができた。世界中の子供達が希望をもち、いつでも笑顔でいてほしい。

「オーケン カンボジア」